

印刷新報

THE INSATSU SHIMPO

(木曜日発行)

第4687号

(昭和33年11月11日第三種郵便物認可)

10月18日 木曜日

平成30年(2018年)

発行所 (株)印刷出版研究所

郵便162-0041 東京都新宿区平河町5丁目5番1号TEL(03)5155-7925

FAX: 東京03(5155)7930・大阪06(6353)4944

郵便530-0044 大阪府北区東天満2-4-14TEL(06)6353-4866

年間購読料18,500円(税込)(振替口座00120-4-47973番)

☆週一回刊☆

日印産連・知財公開フォーラム2018

中小企業の知財論説く

技術活かしニッチトップ企業へ

日本印刷産業連合会(金子真吾会長)は、「知財フォーラム2018」を10月5日に東京都中央区立日本橋公会堂で開催し、印刷業界内外から約260名が参加した。専門家による講演や事例発表、パネルディスカッションが行われ、「ニッチトップ戦略」などデジタル時代における中小企業の知財戦略の一端が示された。

今回のフォーラムは、印刷産業に止まらず情報を媒介とするあらゆる産業を対象に、著作権や特許などの知財の重要性を周知するとともに、中小企業の経営戦略にスポットを当てた知財戦略の構築を目的に開催された。

浅野副会長



浅野副会長



坂島会長

開会に際して日印産連の浅野副会長は「日本は情報産業で活躍している専門家を招き、デジタル時代をどう生き抜いていくのか、あるいは知的財産とは一体何なのか、知財戦略はどのようなべきかをみなさまにプレゼントさせていた。本フォーラムが少しでも有益となることを願っている」と期待を述べた。

フォーラムでは、はじめに東京2020大会のエンブレムのデザインを手がけたデザイナーの野

老朝雄氏による特別講演

第一部では、人気小説

から、

知財戦略の専門家である

坂島氏のもとには、自

社技術の収益化によって

下請け脱却を目指す全

国の中小企業から多くの相

談が寄せられる。しか

し、坂島氏は「自社の技

術を活かして下請けから

脱却するのは簡単なこと

ではない」と指摘する。

なぜならば、技術の収益

化するには①マーケティング、②製品開発、③量産体制の整備、④販路開拓の4要件が必要だが、多

くの下請け中小企業が行

「下町ロケット」に登場する弁護士モデルとして知られる坂島正洋氏(内田・坂島法律事務所)が、「中小企業経営に知財を活かすための戦略論」について講演した。

また坂島氏は、技術の収益化においては、技術の収益化に成功しても、待つて知られる坂島正洋氏(内田・坂島法律事務所)による価格競争。そうした事態を防ぐためのツールが特許をはじめとした知財である。

仮に4要件を揃えて収益化に成功しても、待つて知られる坂島正洋氏(内田・坂島法律事務所)による価格競争。そうした事態を防ぐためのツールが特許をはじめとした知財である。

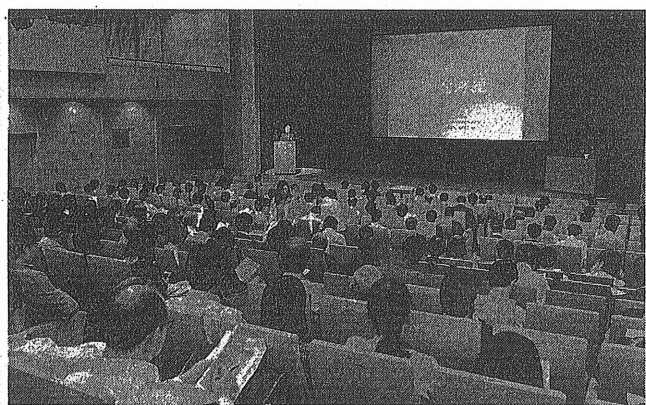
また坂島氏は、特許取得による副次的な効果として、「自分の発明が見える化されるのに加え、『あなたの発明は人類史に類がない』とお墨付きができるようになる。これである気のない研究者は、このように知財に対する権利行使は悪意なく行われているケースも多く、教

育・啓発活動の重要性を指摘した。

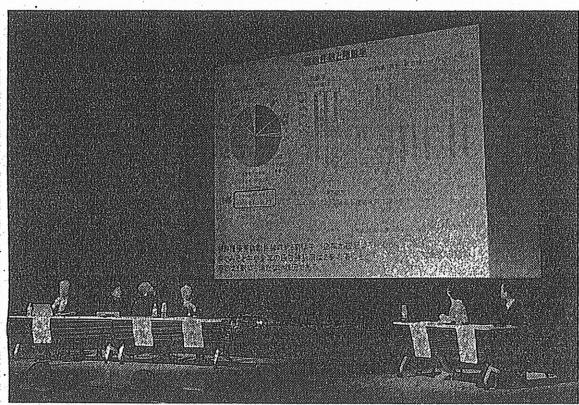
また、AIやIoTなどのIT技術を活用したビジネスモデル特許が増加傾向にあることについて、坂島氏は「新しいものなのでかなり広く特許が取れる。仮に広く取れなくても、投資家や銀行の特許に対するリテラシーが高まっているので、取得するメリットはある」と勧める。

一方、中野参事官はAIを活用したビジネスモデル特許の海外事例を紹介し、「一部は権利化して独占するが、残りはできるだけオープンにすることで参入者を増やし、劇的に市場が拡大したケースもある。どこまで権利を確保するのか、市場の獲得には戦略も重要だ」と主張した。

そのほか、地方における課題や産官学連携の問題など、幅広い話題について議論が交わされた。



さまざまな業界から260名が参加した



活発な議論が交わされたパネルディスカッション